

令和5年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

小学生の部 可児保護区保護司会 会長賞

「たがいが気にかけ合える社会に」

可児市立広見小学校 6年

浅賀 優希

「特殊詐欺、全国 193 億円被害」「ニセ電話詐欺被害の発生」最近、犯罪の中でも、オレオレ詐欺のニュースを聞くことが多いように感じる。

オレオレ詐欺とは、どんな犯罪なのか、インターネットで調べてみた。息子や孫になりました電話で、お金を要求する。ターゲットは高齢者が多いそうだ。令和三年度の岐阜県の発生件数は、218 件、被害金額は 2 億円をこえるそうだ。

私は、「許せない」と強く思った。子供や孫を心配する高齢者の優しい気持ちを利用するなんて。そのお金は、長い間一生けん命働いたお金かもしれないのに。明日から生活できなくなるかもしれない。どうしてこんな犯罪が起きてしまうのだろう。詐欺被害にあった人の 75% が「だれにも相談しなかった」という警察庁の調査結果がある。相談する相手がいれば、見守ってくれる人がいれば、犯罪は未然に防げたかもしれない。

「ちょっと〇〇さんの家に行ってくるわ。」以前私の祖母は、地域のお年寄りを見守る、「民生委員」を務めていた。民生委員は、自分の担当の地区に住んでいるお年寄りの相談に応じたり、必要な援助を行ったりしている。

祖母はボランティアで、三年以上務めていたが、体調をくずしたことで、ボランティアは続けられなくなった。祖母の話では、家族がおらず、一人でずっと家にいるお年寄りやそうじや洗たくがなかなかできないお年寄りの力になれるようがんばっていたそうだ。民生委員の仕事は、あまりやりたがる人がいない。とても多くのお年寄りを担当する責任は重い。それでも祖母が民生委員の仕事を続けたのは、お年寄りが安全に、安心して生活してほしいと願っていたからだろう。祖母のような存在は、お年寄りの心の支えになり、社会を支えることにもつながっていたのではないだろうか。高齢化社会の問題は、ボランティアの力にたよるだけでは、もちろん解決できない。高齢者に分かりやすく、利用しやすい制度や、施設がもっと必要だ。

けれど、祖母のように、私にできることもまだあるはずだ。私の住む地域にもたくさんのお年寄りが住んでいる。私はお年寄りにあいさつをしたり、お年寄りの様子に気をくばり、進んで声をかけたりできるようになりたい。お年寄りが一人にならない、社会からこ立しないようにすることで、犯罪を未然に防ぐことにもつながるのでないのだろうか。

私がこまっている時、友達から「だいじょうぶ？」と声をかけられるとうれしくなる。でも、「めいわくかけてしまわないかな。」と心配したり、「自分ががまんすればいいか。」と思ってしまったりすることもある。明るい社会とは、こまっていること、不安なことを伝えられ、受け入れら

れる社会だ。だれもがこまっていることや不安なことをかかえて生きている。

社会に生きる私たちが、おたがいに、気にかけ合いながら、生きていくことが大切だと思う。そうした社会をつくっていくことが、お年寄りが犯罪にまきこまれることなく、安心して過ごすことにつながる。そしてそれは、お年寄りだけでなく、全ての人々が安心して過ごせる社会だと思う。

周りの人のことに少し気を配るという小さな一步を心がけて生活していきたいと思う。